

# 日本電子音楽協会

## 第6回 定期演奏会

主催:日本電子音楽協会

助成:財団法人ローランド芸術文化振興財団

後援:日本作曲家協議会／オーストリア大使館

○プログラム○

大河内俊則

人間とコンピュータによる "nada"  
"nada" by human and computer

Andreas  
Weixler

"Jade f.o.o.t" for orchestra on tape (招待作品)

毛内彩子

"COMPOSITION" - トランペットと電子音による -  
"COMPOSITION" - for Trumpet and Tape -

トランペット: 坂井俊博

休憩

松本日之春

「メランコリック・バード」 リコーダとコンピュータのための  
"L'oiseau mélancolique" pour Recorder et Computer

リコーダ: 古橋潤一

岡崎光治

「緋婚」IV コンピュータとピアノのための  
"Hikon-IV" for Computer and Pf.

ピアノ: 石垣弘子

水野みか子

「パンテオンの糸」  
"Strand in the Pantheon"

チェロ: 太田一也

音響: サウンドクラフト  
Design by Mayumi MORI

大河内俊則

■人間とコンピュータによる "nada"

◇プログラムノート

壁細胞の細胞膜上に存在する受容体へ、各種酸分泌刺激物質が結合することにより、壁細胞内で一連の酸分泌反応が起きる。この反応の最終過程では、壁細胞内からH<sup>+</sup>を放出し、代わりにK<sup>+</sup>を取り込むプロトンポンプと呼ばれる酵素H<sup>+</sup>,K<sup>+</sup>-ATP aseが働く。本曲は、このプロトンポンプの働きを阻害して、壁細胞からの酸分泌を抑制する。

◆大河内俊則

1963年三重県生まれ。愛知県立芸術大学卒業。愛知県を拠点に制作活動を行っている。最近の電子音音楽作品は「はじめからはてしなく」「monomedia」など。

◆岩田恭彦

祖父・故祥園、父律園、叔母卓子(箏)の邦楽家族の長男として名古屋に生まれる。東京芸術大学在学中は、山本邦山、北原篁山両氏に師事。5線譜尺八を主体に映画音楽、ジャズ、クラシック等の広く多彩な音楽活動を行う。世界デザイン会議(オランダ)に参加し演奏。'94年名古屋市民芸術祭伝統芸能部門で芸術祭賞受賞。NHK「邦楽のひととき」等多数出演。現在は箏・尺八演奏企画代表、竹の会、綾の会、東海三曲演奏家の会所属、三曲倶楽部みっくす講師。

■"Jade f.o.o." for orchestra on tape(招待作品)

◇プログラムノート

1994年から95年にかけて、作曲者自身のスタジオにおいてオーケストラの音響のためのアルゴリズム作曲を行い、95年、指揮者ヴォルフガング・ハッティンガー氏により、人声や楽器のアンサンブルの録音を実施。

翌'96年、イギリスの East Anglia 大学のスタジオでこの録音をコンピュータによって編集し、さらにアルゴリズム合成によって音響の加工をおこなって完成した。

使用した主なソフトウェア Sound Designer 2.8

Sound Hack 0.8

Opcode Max 3.0

使用した主なハードウェア Macintosh Power Mac 8100

Macintosh Powerbook 150

Atari 1040 STi

◆Andreas Weixler(アンドレアス・ヴァイクスラー)

1963年オーストリアのグラーツ市生まれ。

グラーツ芸術大学で作曲を学んだ。主として、アルゴリズムによる作曲、音響合成、また、他の芸術やメディアと結合した作品の制作を行っている。

これまで多種目の作品が、オーストリア、チェコ、ドイツ、ベルギー、スイス、ブラジル、カナダ、コロンビア、中国などで上演されたが、日本では今回が初めてである。

現在、母校のグラーツ芸術大学、リンツにあるブルックナー音楽大学などで講師をつとめている。

Andreas  
Weixler

■"COMPOSITION" —トランペットと電子音による—

◇プログラムノート

曲名は作品を喚起する手掛かりであり、特に最近曲名も作品の一部であり、曲名を含めて作品とする傾向にあるように思う。実際音楽に限らず、それしかないであろうと思われるほど適切な、時には刺激的な、受け取り側を絶妙に惹き付けるタイトルに遭遇すると、ただ感心するばかりであるが、いざ自分のこととなると、気恥ずかしさが先にたち、語彙の貧困さやイメージを限定してしまうことへの抵抗感もあって、なかなかうまい具合にいかない。結局<COMPOSITION>に落ち着いてしまった。特に絵画上の流儀との関連はなく、SONATA、SYMPHONYといった意味あい採用した。

制作中、ロバート・キャパの一連の戦争写真が心に懸かり、技術的な創意や試みよりは時代錯誤のセンチメントに過ぎたかもしれない。

使用機材 AKAI-S 3200 XL

◆毛内彩子

1952年東京都出身。東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。同大学院修了。

在学中、長谷川良夫、南弘明、黛敏郎の各氏に師事。安宅賞受賞。

現在、日本音楽学校非常勤講師

◆坂井俊博

1954年福井市生まれ。故金石幸夫、中山富士雄氏に師事。

1978年東京芸術大学卒業。

1979年ミュンヘン国立音大入学。

1980年カッセル国立歌劇場管弦楽団入団。

1985年帰国。

現在迄に、第43回日本音楽コンクール第1位、プラハの春国際音楽コンクール第5席、トゥーロン、ジュネーブの国際コンクールでディプロムを受賞。

昨年はメキシコに東京ソリストアンサンブルの指揮者、独奏者として招かれた。

現在は東京シンフォニエッタのメンバー。

毛内彩子

## ■「メランコリック・バード」 リコーダとコンピュータのための

### ◇プログラムノート

時が経つ。  
風景が美しくなる。  
さっきよりももっと。  
うそだらう！ と  
黄金に輝く夕日を見る鳥たち。  
憂鬱な鳥たちよ！

ミュージックコンクレート以外の手段を用いず、  
それからもっとも遠い世界をめざし、  
平易な響きに身をまかせたいとねがう気持ちを  
ねじふせながらうたう鳥たち、  
憂鬱な鳥たちよ！

### ◆松本日之春

1945年生まれ。'68年芸大卒。'70年同大学院修了。  
'68年毎日音楽コンクール入賞。'69年エリザベート国際音楽コンクール入賞。  
'75年パリ国立高等音楽院作曲科・電子音楽科を主席卒業。  
フランス国营放送音楽研究グループ、及びブルジュユ実験音楽グループに属す。  
電子音楽作品を多数制作・初演。管弦楽曲、室内楽曲、声楽曲、邦楽曲、電子音との複合音楽等  
多数の作品がある。  
現在フェリス女学院大学音楽学部教授、芸大、桐朋音楽学部講師。  
日本現代音楽協会会員。

### ◆古橋潤一

桐朋学園大学音楽学部古楽器科研究科卒業。  
第6回古学コンクール「山梨」入選。  
第30回ブリュージュ国際古学コンクール Honorable Mention 受賞。  
バッハ・コレギウム・ジャパン、メンバー。  
昭和音楽大学講師。

松本日之春

## ■「緋婚」Ⅳ コンピュータとピアノのための

### ◇プログラムノート

コンピュータのシーケンスコントロールによる音と、ピアノのライブ演奏による曲です。コンピュータは自動演奏しながら、トーンジェネレータであるTG-77の音色変化のためのパラメータをさまざまにコントロールしていきます。

### ◆岡崎光治

日本作曲家協議会会員。日本電子音楽協会理事。仙台電子音楽協会主宰。仙台放送合唱団音楽監督。仙台オペラ協会総監督。

[主な作品]

オペラ「鳴砂」

コンピュータ・電子音による「碑の音」Ⅰ～Ⅹ

吹奏楽と混声合唱・3台のシンセサイザーのための「サン・ファン・パウテスタ号賛歌」

オーケストラのための「緋曲」Ⅰ、Ⅱ

電子音による「緋婚」Ⅰ～Ⅲ

ミュージカル「炎の迷宮－アザマロの乱」

日本舞踊のための「おしらさま幻想」 など

### ◆石垣弘子

武蔵野音楽大学音楽学部ピアノ科卒。

「東北の作曲家」コンサート('94いわき、'95青森など)、「日本電子音楽協会定期演奏会」('92・'95東京、'94名古屋)、「アジア作曲家フォーラム'95仙台」、「海の合唱団ヨーロッパ公演」('96リスボン、マドリッド)、宮城県芸術協会音楽部会派遣コンサート('97中国吉林省長春市)、「ISCM/ACLの夕べⅣ」(国際現代音楽協会／アジア作曲家連盟の夕べ:'98東京)、「仙台アジア音楽祭 '92、'96、'98」などのコンサートに出演。

岡崎光治

## ■「パンテオンの糸」

### ◇プログラムノート

いくつもの繊維や細い糸がよりあわさると、より太くて複雑な組成を持つ綱やひもができあがる。その綱やひも(あるいは太い糸)を縦横に組み合わせて布を作ることも可能であり、視覚情報処理の世界では、布のヒダや曲線の感触を認識するために、三次元空間に二次元物体を置いて考える。この作品は、布という二次元平面を飛び越えて直接太い糸や綱を三次元空間に踊らせたらどうなるだろうか、という問いかけから始まった。視覚情報の表現方法を比喩的に聴覚情報にあてはめて考えてみたのである。

この作品の、ややローテクなシステムは、演奏家、コンピュータ技術者、音響技術者らのスリリングでアクティブな対話を成立させるために、名古屋市立大学の電子音楽スタジオで実験しながらくみ上げていったものである。本日の会場でどのように鳴り響くか、それもまたスリリングな一回性を持っている。

### ◆水野みか子

東京大学文学部および愛知県立芸術大学音楽学部・研究科を卒業/修了。名古屋市立大学、名古屋芸術大学講師。電子音楽作品には、ソプラノとコンピュータのための《diglvox》《神々の道に吹く風は》、チェロとコンピュータのための《Dreaming City》などがあり、ブルジュ電子音楽祭、ミュージック・コンクレート50周年記念祭、ハンガリー・エレクトロアコースティック・ミュージック・ミーティングなどで演奏されている。

### ◆太田一也

桐朋学園大学卒業。勝田総一、安芸晶子、原田幸一郎、三善晃、末吉保雄、D.シャフラン、I.ガブリリッシュの各氏に師事。毎日コンクール入選。ヨー・マ氏の代理でヴァイオリンのY・キム氏と共演。'89年にモーツアルテウム音楽大学にて演奏したほか、東京ゾリスデン、名古屋フィルハーモニーの欧州公演ではソリストをつとめた。東京交響楽団首席チェリストを経て、名フィル団員。